

## 「全鍍連」 2020年 4月号 理事長のよこがお

新潟県鍍金工業組合 理事長 井筒 昇

### 「航空機産業参入への挑戦」

わが社は1950年に先代である私の父が新潟市中央区で創業しました。その後新潟市の東区に拠点を移し、これまで様々な表面処理加工に取り組んできました。

転機となったのは2008年頃です。大手取引先のいくつかの事業が東南アジアの会社へ移ってしまい、仕事が減りました。それをきっかけに『航空機産業に参入できれば大きな信頼とPRになるし、新たな発注元を得られるのではないかと』思うようになり、ちょうど運よく新潟市からN I I G A T A S K Y P R O J E C Tに声をかけてもらうことができました。

今から13年前にN I I G A T A S K Y P R O J E C Tの構想が始まりました。新潟市とその周辺地域には金属加工などの優れた技術を持つ中小企業がたくさんありますが、安価な海外製品に押され厳しい経済状況が続いていました。その課題を解決するため既存産業を高度化し、高品質で価値の高い製品を作り地域経済を活性化する必要がありますがありました。

当時から、航空機産業は航空機の需要を背景として成長が確実視されている分野でした。参入には高い技術力や品質保証体制などが求められ、それをクリアすることは企業の成長とPRにつながります。

これらに着目し、取り組むこととなった事業がN I I G A T A S K Y P R O J E C Tです。発足して9年が経過した現在では、新潟県内だけでなく県外の企業・研究機関などが参加し、取り組みは大きく広がっています。

航空機産業に参入するには高品質なものを生産でき、その環境を維持・向上・管理できる体制が整っていなければなりません。それを証明するJ I S Q 9100や、N a d c a pといった航空宇宙関連の国際認証のほか、発注元が設定する審査をクリアにする必要があります。これらに対応するため、N S C Aで情報共有を図ったり、社員の意欲が上がるよう社内の経営体制を変えたりしました。また、認証審査機関とのやり取りのために英語を話せる人材を採用したほか、県外から講師を招いて勉強会を開催するなどしました。すべてをクリアするまでに5年以上かかりました。

社員がやる気を持ち、新しいことに挑戦できる「進化し続ける会社」でありたいと思います。